

小字とその由来 [A-]

集落名の略名・上物領(上惣)・惣領分(惣)・琵琶(琵)・上庶子分(上庶)
 ・中庶子分(中庶)・下庶子分(下庶)・遠藤原(遠)・小熊(小)
 ・寺分上(寺上)・寺分中(寺中)・寺分下(寺下)・人増(人)
 ・早田(早)

・A- 1	鷺坂下	(寺下)	・A- 2	鷺坂	(寺下)	・A- 3	鷺田	(寺下)
・A- 4	入字	(寺下)	・A- 5	石根	(寺下)	・A- 6	粟久保	(寺下)
・A- 7	打越	(寺中)	・A- 8	根浜下	(寺中)	・A- 9	二樹免	(寺中)
・A- 10	五反田	(寺下)	・A- 11	中河原	(寺下)	・A- 12	鍛冶ヶ窪	(寺中)
・A- 13	土屋窪	(寺中)	・A- 14	碁打谷	(寺上)	・A- 15	六反田	(寺中)
・A- 16	上川原	(寺中)	・A- 17	宮ヶ崎	(小)	・A- 18	根岸	(小)
・A- 19	小熊下	(小)	・A- 20	関口	(小)	・A- 21	小熊原	(小)
・A- 22	小熊	(小)	・A- 23	ヨウジ	(小)	・A- 24	堂ヶ山	(小)
・A- 25	舞ヶ窪	(小)	・A- 26	長坂	(小)	・A- 27	ミシズ	(小)
・A- 28	寺窪	(中庶)	・A- 29	筑田	(下庶)	・A- 30	木門舟	(下庶)
・A- 31	大庭	(下庶)	・A- 32	高神	(下庶)	・※- 33	上三笠	(寺下)
・A- 34	大鐘撞	(寺下)	・A- 35	水上	(寺下)	・A- 36	下水上	(人)
・A- 37	芹沢	(人)	・A- 38	水上	(人)	・A- 39	上人増	(人)
・A- 40	田代	(人)	・A- 41	人増	(人)	・A- 42	上尾	(人)
・A- 43	桜畑	(人)	・A- 44	鴻之巣	(人)	・A- 45	平之谷	(早)
・A- 46	梨子木窪	(早)	・A- 47	榎木窪	(早)	・A- 48	中之谷	(寺下)
・A- 49	下稻荷谷	(寺上)	・A- 50	上稲荷谷	(寺上)	・A- 51	向坂	(早)
・A- 52	石橋	(早)	・A- 53	出谷	(早)	・A- 54	松ヶ峯	(早)
・A- 55	風越	(早)	・A- 56	馬場	(早)	・A- 57	西ノ谷	(早)
・A- 58	北堀	(惣)	・A- 59	堀切	(惣)	・A- 60	見ノ越	(惣)
・A- 61	寺田	(中庶)	・A- 62	八面	(中庶)	・A- 63	西ノ窪	(中庶)
・A- 64	水源	(中庶)	・A- 65	八里	(上庶)	・A- 66	坊ノ脇	(上庶)
・A- 67	十二社	(上庶)	・A- 68	八坂下	(惣)	・A- 69	八反田脇	(惣)
・A- 70	八反田	(惣)	・A- 71	下頭無	(惣)	・A- 72	若葉山	(惣)
・A- 73	頭無	(惣)	・A- 74	ビク二塚	(遠)	・A- 75	瀧頭	(遠)
・A- 76	東遠藤原	(遠)	・A- 77	遠藤原	(遠)	・A- 78	一本松	(遠)
・A- 79	駒ヶ滝	(惣)	・A- 80	遠藤原	(遠)	・A- 81	広木町	(惣)
・A- 82	清見	(遠)	・A- 83	遠清見	(遠)	・A- 84	黒木沢	(惣)
・A- 85	岩崎	(惣)	・A- 86	深谷	(上惣)	・A- 87	愛宕裏	(上惣)
・A- 88	花野	(上惣)	・A- 89	富士見	(上惣)	・A- 90	丸山	(上惣)
・A- 91	新笹ノ	(上惣)	・A- 92	高塩	(上惣)	・A- 93	根府川	(上惣)
・A- 94	猿山	(上惣)	・A- 95	大原	(上惣)	・A- 96	大原	(上惣)
・A- 97	猿山	(上惣)	・A- 98	大原	(上惣)	・A- 99	萩窪	(上惣)
・A-100	浅野	(上惣)	・※-101	前原	(上惣)	・A-102	葉山	(上惣)
・A-103	若森	(上惣)	・A-104	中愛宕	(上惣)	・A-105	清水	(上惣)
・A-106	久保	(惣)	・A-107	向久保	(上惣)	・A-108	漆原	(上惣)
・A-109	窪沢	(惣)	・A-110	小山崎	(惣)	・A-111	峯山	(上惣)
・A-112	清水	(琵)	・A-113	屋代山	(琵)	・A-114	水無	(惣)
・A-115	石原	(上惣)	・A-116	疏黄場	(上惣)	・A-117	石原越	(上惣)
・A-118	泰之	(琵)	・A-119	琵琶入	(琵)	・A-120	杜鵑山	(琵)
・A-121	琵琶	(琵)	・A-122	池田	(琵)	・A-123	池田前	(琵)
・A-124	入山	(早)	・A-125	谷ノ頭	(早)	・A-126	代賀下	(早)
・A-127	早田	(早)	・A-128	雨沼	(琵)	・A-129	奥卷	(惣)
・A-130	上桜	(早)	・A-131	七岩	(上惣)	・※-132	番匠	(惣)
・A-133	向山	(中庶)	・A-137	岩簾	(惣)	・A-138	長窪	(上惣)
・A-139	扇谷	(上惣)	・A-140		(上惣)	・A-141	上土屋窪	(寺中)
・A-142	入字	(寺下)						

「由来」

地形の分類について

地名を発生的に分けると、利用・占有・分割の3つに大別されます。利用地名は、地形・地物などの自然物によって名づけられたものです。日常の生活上に利用される土地です。たとえば、「谷戸」・「清水」などをいいます。

占有地名は、土地利用が進んで、特定集団・または個人占有を必要とするようになって、ひとつの地域に対して占有を表現する名称がつけられています。たとえば、「新田」などです。

また、信仰状態によって「鍾撞免」「弁天通り」などがあり法制上によって「五反田」「六反田」「八反田」などがあります。

また、分割地名で方位・上下・大小・新古の区別によって、在来地名を分割命名したものに「上稻荷谷」「下稻荷谷」などがあります。

* 上惣領（矢沢）（A-※）〔カミソウリョウ・ヤサワ〕

土屋は大きく分けて、惣領分・大庶子分・大寺分となっています。惣領分は上・下・琵琶、大庶子分は上・中・下・遠藤原・小熊、大寺分は上・中・下・早田・人増にそれぞれ、集落が分れています。元来、「矢沢」は「八沢」とも呼ばれていました。すなわち「八沢」が転じて「矢沢」となったと思われます。現在七国峠・平塚カントリークラブ・愛宕山自然公園等があり、地区民の「いこいの場」でもあります。

* 惣領分（A-※）〔ソウリョウブン〕

土屋の古地名です。土屋三郎宗遠の実子宗光（1184～1235）のために、宗遠が与えた土地といわれています。

* 琵琶（A-※）〔ビワ〕

惣領分のうちでも、特に南東へ奥深く入り込んだ谷戸の集落を、琵琶といいます。地形が弦楽器の「琵琶」の形に似ているところから、その地名が付けられたと思われる、隣接の琵琶入（A-122）もその類似地名と考えられます。この集落は、比較的古くから存在していたと思われます。

* 庶子分（A-※）〔ショシブン〕

惣領分と同じく、鎌倉時代からの地名です。土屋三郎宗遠（1124～1213）は、はじめ子が無かったので義兄岡崎義実の次男義清を養子としましたが、のちに実子宗光が生まれました。それで、宗光に惣領分を、義清に庶子分を与えたと伝えられています。

* 遠藤原（A-77）〔エンドウハラ〕

土屋の西北端にあり、中井町に隣接しています。鎌倉時代にその祖先が住みついたところと思われます。小田原藩の時代には、小田原へ通じる街道の宿場として栄えたともいわれています。住居地より遠く離れた原の意であると思われます。

* 小熊（A-22）〔コウマ〕

鎌倉時代に土屋三郎宗遠が紀州熊野権現を勧請し分祀したので、小熊野が小熊に変わったといわれています。

* 寺分（A-※）〔テラブン〕

土屋の古地名のひとつです。土屋三郎宗遠が広く土屋の地を領していたころ、惣領分・庶子分・寺分に分割しました。「寺分」は一つの寺だけでなく、宗遠の息のかか

った数個の寺のために用意された土地と考えられます。

- * 早 田 (A-130) [ソウダ]
民俗語の「エキ」の一種で、湿草地のちょっとした窪みを「ソウタ」といいます。
旧家があるところから古くから人家があったことがわかり、丘陵の間にある地域です。
- * 人 増 (A-41) [ヒトフエ]
昔、早田地区から分家したものが居住した所といわれており、同姓の家（水島・横山等）があります。現在JA湘南農協土沢支所・県警平塚警察署土沢駐在所・市立土沢中学校・土沢診療所・つちや老人ホーム等があります。また平塚市に合併以前は土沢村役場が置かれ、村内行政の中心地でありました。隣接の「上人増」は分割地名と考えられます。
- * 愛宕下 (A-107) [アタゴシタ]
上惣領の鎮守愛宕神社の下という位置を表現した地名と考えられます。
- * 愛宕裏 (A-87) [アタゴウラ]
愛宕神社の裏に当たるとい位置的地名と思われます。
- * 雨ノ沼 (A-131) [アマノヌマ]
大字上吉沢の境界に接する丘陵上につけられた地名です。また大字上吉沢に隣接して天ノ間（あまのま）があります。
- * 池田前 (A-126) [イケダマエ]
旧家原元助氏宅を通称「池田」といいます。先祖が池田の地名の所より移住して、旧地を襲名したと言われています。
- * 池田入 (A-125) [イケダイリ]
池田の入山ということで付けられた地名であると思われます。
- * 石 橋 (A-52) [イシバシ]
早田集落の北方地域にあります。むかし、三笠川に石橋がかかっていたので付けたと言われています。
- * 一本松 (A-78) [イッポンマツ]
台地または平地に独立した一本の松が生えていたので付けたと考えられます。現在は枯れてしまって、昔のような赤松の雄大な木が見られません。
- * 上稲荷谷 (A-50) [カミイナリヤト]
* 下稲荷谷 (A-49) [シモイナリヤト]
稲の名のつく地名は多いが、その昔、ここに稲荷様が祀られていたので付けられた地名と考えられます。
- * 入宇田 (A-4) [イリウダ]
「ウダ」の入り込んだ所です。ウダは湿田の意味で「ニタ」・「ヌタ」に似ているが、腐食土の水のたまった所を呼んだらしい。昔は「ドブッ田」であったようです。
- * 入 山 (A-127) [イリヤマ]

一定の地域に住む農民が慣習上の権利に基づき、一定の山林に入会い（いりあい）、約束に従い木・柴・草等を集団的に採取するところから、その地名が付けられたと思われます。

- * 岩 崎 （A-85）〔イワサキ〕
丘陵の先という地形名と考えられます。
- * 岩 淵 （A-137）〔イワブチ〕
岩の切り立った地形から名付けられたと思われます。
- * 打 越 （A-7）〔ウチコシ〕
民俗語で、屋の棟の覆い屋根を「うちこし」ということから、丘陵上に付けた地形名であろうと思われます。
- * 榎木窪 （A-47）〔エノキクボ〕
窪地に榎があったものと思われます。
- * 東遠藤原（A-76）〔ヒガシエンドウハラ〕
遠藤原の東に位置したところから付けた地名と考えられます。
- * 大 原 （A-96）〔オオハラ〕
大原谷 （A-98）〔オオハラヤト〕
台地の広い原を呼称したものです。この大原は集落共有の入会地を呼称するものと言われています。また、大原谷は、大原に隣接したところから付けられた地形名と考えられます。
- * 木 舟 （A-30）〔キブネ〕
鎌倉時代に土屋宗遠が出陣の折りに、しばしば祈願したと言われる「木舟神社」があったので名付けられたと思われます。土屋1210番地鈴木兼吉氏宅の裏にある台地をいいます。
- * 清見原 （A-82）〔キヨミハラ〕
由来は判然としませんが、むかし花簀が通ったということから、あるいは清め（きよめ）に関係した地名であると思われます。
- * 清見下・（経塚）（A-83）〔キヨミシタ・キョウヅカ〕
清見原の下に有るところから、この地名が付けられたと思われます。また、清見下付近を通称「経塚」と言っています。
- * 久 保 （A-109）〔クボ〕
丘陵の間にある窪地を指した地名と思われます。
- * 窪 沢 （A-112）〔クボサワ〕
丘陵の間の沢に付けられた地形名と考えられます。
- * 黒木沢 （A-84）〔クロキサワ〕
土屋の西端にあり、杉の大きな木が多い所で黒く見えるので付けられたのであろうと思われます。

- * 源 水 (A-64) [ゲンズイ]
由来ははっきりしませんが、丘陵の間に谷戸田(やとだ)があり、その丘の側面に大小14ヶ所にわたって横穴古墳が見えます。この付近の山裾から、清水が豊富に湧き出していたので、その地名が付けられたと思われます。
- * 高神山 (A-32) [コウジンヤマ]
高台の陣地という意味であると思われ、高神は「高陣」の替字であると考えられます。鎌倉時代の豪族土屋氏の館に近いところから、関係ある地名と思われます。
- * 小熊下 (A-19) [コウマシタ]
小熊の台地の下という意味で付けられた地名です。
- * 小熊原 (A-21) [コウマハラ]
小熊に隣接した台地の原に付けられた地名です。
- * 輿 巻 (A-132) [コシマキ]
八坂神社が熊野神社へ合祀されていた時、神輿が熊野神社から遠藤原を通り、惣領分上谷地区の赤坂を下り終えて大野氏宅に寄り、神輿の緩んだ「クモジリ」を締め直したところから、輿巻(コシマキ)と呼ばれました。また、「コシマキ」は「腰巻」ともいわれ、丘陵の裾を取り巻く意味とも考えられます。
- * 五反田 (A-10) [ゴタンダ]
大化改新(645)班田収授制の遺名と思われ、一区域五反歩の開墾地名であると考えられます。
- * 五分一 (A-※) [ゴブイチ]
小田原衆所領役帳に「中郡土屋内五分一」と見えていて、もとは大住郡土屋村に属して居ましたが、現在は足柄上郡中井町五分一となっています。小田原北条時代か、あるいはそれ以前に二宮八民の森林地帯であったことが分かります。
- * 鷺 田 (A-3) [サギタ]
湿地の田へ鷺が飛来したので名付けられたと思われます。
- * 桜 畑 (A-43) [サクラハタ]
桜があった所の開拓地名と思われ、桜畑は迫畑(さこはたけ)の転化という説もあります。迫(さこ)は、狭く細く行きつまったような所といえます。
- * 上桜畑 (A-133) [カミサクラハタ]
桜畑の分割地名です。
- * 十二社 (A-67) [ジュウニソウ]
土屋に残る古社で、平安末期に勧請されたという十二社権現が鎮座しているので名付けられました。
- * 新 林 (A-91) [シンバヤシ]
由来ははっきりしませんが、山林として開墾した所と思われます。
- * 芹 沢 (A-37) [セリザワ]
人増に近い所で、山林と谷戸田の地域です。丘陵の入り込んだ所に冷たい湧き水が

あるので、芹が多く生えていたと言われています。

* 泰之前 (A-121) [ダイノマエ]

台地を指した地名と思われます。泰(たい)は台(だい)の替字であると考えられ、土地のひとは「デエノメエ」と、呼んでいます。

* 代賀下 (A-129) [ヨウガシタ]

むかし寺があったということから、梵語の瑜伽(よーが)慣用字を代賀にした思われます。真言宗を瑜伽宗といいます。

* 高 見 (A-92) [タカミ]

中井町との境界に近い七国峠付近をいいます。通称「タカンド」といっている所です。むかし土屋氏がしばしば戦略の地として「のろし」を上げた物見の場所です。中世のころ七次(ななつぎ)ともいい、また魚商の継場でもあったといわれています。現在は、土屋氏滅亡後の念仏供養塚があり、付近一帯は平塚カントリークラブの広大なゴルフ場になっています。

* 田 代 (A-40) [タシロ]

上吉沢との境界近くにあり、一般に開墾予定地を呼びました。また、田の代わりの土地の名称の表現とも思われます。

* 筑 田 (A-29) [ツクダ]

土屋宗遠の居館の大手に当たる位置から付けたといわれています。また、作田(つくりだ)の替字ともいう説があります。

* 土屋窪 (A-13) [ツチャクボ]

通称寺分の1777番地高津誠氏宅地南方の雑木林中に複雑な構造のめずらしい古墳があります。その図は中郡勢誌(昭和28年刊)所載のものに詳しいが、抗(こう)は2段になり、北西方の甲室は総羨道(そうせんどう)ともいうべきもので、これから乙室・丙室・丁室・戊室・己室と連なって丙室は北西方に向いて大きく切り開かれているが、これは狐によって小孔が開けられていたものを、後に大きく切り開き、倉庫代用の丙室などの入り口にしたものと考えられます。この5室からなる地下墳とは横穴を地下に移した古墳の一種といわれています。

また、この付近を岩屋(いわや)から転じた土屋窪というようになったといわれています。隣接の「上土屋窪」は前記の分割地名であると考えられ、土屋の地名の起源であるといわれています。

* 出 口 (A-53) [デグチ]

早田集落の出口をいいます。

* 寺 窪 (A-28) [テラクボ]

往古、大乘院の西方に、末寺か御坊があった窪地から名付けられたと思われます。

* 寺 田 (A-61) [テラダ]

大乘院末寺の宗憲寺・正福寺が明治元年(1868)神仏分離まであり、同寺所有の田地から名付けられたと思われます。

* 堂ヶ山 (A-24) [ドウガヤマ]

大乘院末寺の正福寺薬師堂があった裏山をいいます。

- * 遠 原 (A-80) [トウハラ]
集落から遠い所の原を名付けたと思われます。むかし、戦国時代の戦死者を埋葬したということで、付近に50の塚があり、通称「五十塚」といっています。
- * 中河原 (A-11) [ナカガワラ]
金目川流域の開拓地名と考えられます。
- * 長 窪 (A-138) [ナガクボ]
丘陵の間にある窪地の地形名で、長い窪であると思われます。
- * 中 里 (A-65) [ナカザト]
早くから開発された集落発祥地と思われます。
- * 梨子木窪 (A-46) [ナシキクボ]
丘陵に近接した地域で、往昔、梨の木があったと思われます。
- * 上三笠 (A-36) [カミミカサ]
- * 下三笠 (A-35) [シモミカサ]
三笠川の流れに沿った、分割地名と思われます。
- * 七国峠 (A-134) [ナナクニトウゲ]
字葉山にあるバス停「七国峠」から、現在も昔と同じルートで走っている、古道大磯街道(二宮街道・塩海〔シボミ〕街道ともいう)を南東へ550mほど入ったところ(左手は土屋字根府川付近、右手は中井町)で、新道と古道大磯街道が二手に分かれています。
ここを右へ曲がって、古道大磯街道へと登りはじめて、およそ400mほど尾根伝いに上がりつめた峠が「七国峠」です。ここは、ちょうど平塚市と中井町、二宮町の境界点にあたり、現在は、平塚富士見カントリークラブのクラブハウスが建っています。(現在は、古道大磯街道へと登りはじめて、すぐにゴルフ場の敷地になっており、フェンスがあって通り抜けはできません。)むかし、ここには三本の黒松がそびえ立っていましたが、現在はありません。
この付近の標高は、湘南平よりやや高くおよそ180mで、峠の右手の一段高くなったところは平坦で、ここを、土地の人は高見台(たかんど)と呼んでいます。大変広い場所で、土壇の跡や数個の井戸があり、むかしはささやかな集落があったことを思わせます。この高見台は、ほとんどが中井町と二宮町の区域にあたります。
また、「七国峠」東側のこの付近に「土屋字高見」という小字もあります。
そのむかし、土屋宗遠は、ここ高見台に「物見」を置き、領内の守りに当たったといわれています。異変があれば、ここで「のろし」をあげて、知らせるようにしたもののと思われます。
中井方面は中村氏、土肥方面は兄の土肥実平氏、二宮方面は二宮友平氏、岡崎方面は岡崎義実・真田義忠氏とともに土屋氏の一族であり、ここでのろしをあげると、各氏に連絡ができたものと思われます。
また、ここには長兵衛茶屋がありました。この茶屋は六所神社の国府祭・吾妻神社・川匂神社等の祭典の時は、とくに賑わったといわれています。
明治17年(1884)5月に起きた、卯三郎事件(宮代屋事件)の8人の加害者がここで謀議をこらしたと言われています。現在は、広いゴルフ場が出来ていてその一角にあたります。
現在は、見晴らし台と兼ねた「長兵衛茶屋」としての建物は、新道の大磯街道沿い左の、土屋字根府川付近の一角にあります。ここからは、土屋の里が一望できます。

なお、「七国」の名称は、甲斐・駿河・伊豆・相模・安房・上総・武蔵の七か国が遠望できる、非常に見晴らしのよい所であるので、そう呼ばれていると思われます。

(注) 古道の大磯街道(二宮街道・塩海〔シボミ〕街道)：土屋・中井等は、丘陵地からなっており、土屋遠藤原から中井・二宮・大磯へかけては、古来から旧道が走っていました。この丘陵地の尾根伝いに走っているのが、この大磯街道と呼ばれる街道です。これは、別名二宮街道・塩海〔シボミ〕街道ともいわれ、現在でも重要な道のひとつです。

前述のとおり、この街道はゴルフ場が出来たときに、クラブハウス手前から二宮町と大磯町との境界手前までの間に、新道を設定しました。本来の大磯街道は、中井町・二宮町と土屋の境界沿いの土屋側にあり、この「七国峠」を越えて、二宮・大磯方面へと、通じていました。

- * 西ノ窪 (A-63) [ニシノクボ]
集落より見た方位地名と考えられます。
- * 大庭 (A-31) [オオバ]
土屋氏の館跡で、土屋1167番地付近をいいます。
- * 門前 (A-33) [モンゼン]
土屋氏の館の大手門があり、またその近くに宗憲寺があったので名付けられたと思われます。県道沿いの1182番地付近をいいます。
- * 根岸 (A-18) [ネギシ]
丘陵・台地の根際の位置と思われます。
- * 根府川 (A-93) [ネブカワ]
平塚カントリークラブのゴルフ場になっていて、土屋氏滅亡の供養塚があったという所です。
- * 根下 (A-8) [ネシタ]
台地または砂丘の裾にある集落を指し、寺分の一区画にあります。
- * 萩窪 (A-99) [ハギクボ]
付近一帯が萩の多く生えた窪地であったと考えられます。
- * 八面 (A-62) [ヤツオモテ・ハチメン]
むかし、不作の時に破免地、つまり貢租減免地から付けられたと思われます。免租率八割の所を八免といい、近くを座禅川が流れていることから、しばしば水害にあったことが考えられます。八面は八免からの替字と考えられます。
- * 二榭免 (A-9) [ニショウメン]
榭免(斛免)2石の免租地であった水田と思われます。
- * 八反田 (A-70) [ハッタンダ]
大化改新(645)班田収授制の遺名と思われ、一区画八反歩の開墾地であると考えられます。
- * 八反田脇 (A-69) [ハッタンダワキ]
八反田と類似地名と考えられ、その脇にあると思われます。

- * 花野・(新畑) (A-88) [ハナノ・シンハタ]
地域の端ということで、端(はし)は方言で「はな」ということから、替字と思われます。通称「新畑」と言われています。
- * 番匠面・(馬匠面) (A-135) [バンジョウメン・バジョウメン]
番匠とは、大工のことからその扶持米(ふちまい)を出した所と思われます。
馬匠面とも言われています。
- * 馬場谷 (A-56) [ババヤト]
丘陵の入り込んだ所に付けられた地名です。
- * 平 尾 (A-45) [ヒラオ]
平らな台地のある所と思われます。
- * 広 町・(上谷) (A-81) [ヒロマチ・カミヤ]
水田地域に付けられた地名ですが、土屋の広町は丘陵間の割合広い谷戸田(やとだ)に付けられた地名で、一部の郷土田という冷え田があります。
また、上谷は、広町のことで土地の人は通称「上谷」(カミヤ)と呼んでいます。
- * 富士見 (A-89) [フジミ]
富士山の見晴らしの良い場所から名付けられたと思われます。
- * 舞ヶ窪 (A-25) [マイガクボ]
下大槻に隣接した台地で、むかし村境まで魂送りをして慰霊のための「歌舞」をした場所と思われます。土地の人は通称「メエガクボ」と呼んでいます。
- * 坊ノ脇 (A-66) [ボウノワキ]
坊とは、村の区域をいうことから、村つまり集落の脇の意味と思われます。
- * 堀 切 (A-59) [ホリキリ]
- * 北堀切 (A-58) [キタホリキリ]
切り割った堀で、敵の来攻を防いだものです。往昔、土屋の館があったことから関係地名であろうか。土地の人は、「ホリギリ」と呼ぶこともあります。
また、隣接の「北堀切」は、分割地名と思われます。
- * 前 原 (A-101) [マエハラ]
由来ははっきりしないが、集落共有の入会地ともいわれています。
- * 松ヶ峯 (A-54) [マツガミネ]
松の木がたくさんあった地点名と思われます。明細地図には、「峯松」と表す小字も見られます。
- * 丸 山 (A-90) [マルヤマ]
山の地形よりつけた地名と思われます。
- * 見 越 (A-60) [ミコシ]
山の裾の地形に関係ある地名と思われます。

- * 水上ケ (A-38) [ミズアゲ]
- * 下水上ケ (A-39) [シモミズアゲ]
水利の便が悪く、台地の耕作地へ水を上げた遺名考えられます。また、隣接の「下水上ケ」も同様の分割地名と思われます。
- * 水 無 (A-117) [ミズナシ]
地形的に水が溜れて農耕に困った場所ともいわれています。
- * 塩 汲 (A-95) [シオクミ]
隣村黒岩境にある丘陵地域で、現在平塚カントリークラブのゴルフ場になっていますが、由来は不明です。土地の人は「ショクミ」と呼んでいます。
- * 宮ケ崎 (A-17) [ミヤガサキ]
小熊にある鎮守熊野神社の台地の先端の位置と思われます。
- * 向久保 (A-110) [ムカイクボ]
小字久保の集落より見た丘陵の入り込んだ向かいにあるという意味です。
- * 向 山 (A-136) [ムカイヤマ]
住居地より見た丘陵に付けられた地名です。土地の人は「ムコウヤマ」「ウエノヤマ」と呼んでいます。
- * 向 坂 (A-51) [ムカイザカ]
早田の集落より見た向かいにある坂の名より付けられた地名です。土地の人は「ムコウザカ」とも呼んでいます。
- * 向 原 (A-※) [ムコウハラ]
住居地より見た平らな台地または平地を指した地名です。上吉沢の向原遺跡付近をいいます。
- * 森 下 (A-106) [モリシタ]
上惣領の鎮守で愛宕神社が在るところです。社のある所を杜「もり」といいます。
- * 屋代山 (A-116) [ヤシロヤマ]
白山神社と子ノ神神社(子ノ神社)があるところから、社山(やしろやま)の替字と思われます。
- * 谷 頭 (A-128) [ヤトガシラ]
- * 中ノ谷 (A-48) [ナカノヤト]
- * 西ノ谷 (A-57) [ニシノヤト]
丘陵が深く入り込んだ、水のある居住と耕作に便利な場所で、このような水湿の地を控えた場所を指した地形名をいいます。この他に、上谷(カミヤト・上庶子分)・中谷(ナカヤト・中庶子分)・下谷(シモヤト・下庶子分)と、呼ばれている集落もあります。

- * 碁打谷 (A-14) [ゴウチヤト]
 古老の話によると、そのむかし、夏の暑さをしのぐために、この谷戸山の洞窟の中で碁を打ったといわれています。通称ここは「碁わん」といわれ、約4m四方の大きな横穴がありました。そこで、この区域が「碁打谷」と呼ばれるようになりました。近くの座禅川には、「碁打橋」が架かっています。

- * 深谷 (A-86) [フカヤト]

- * 扇谷 (A-139) [オウギヤト]
 谷(ヤト)と谷津(ヤツ)は同じ語源と考えられ、丘陵地形をもつ土屋は非常に多く存在します。

- * 小山崎 (A-113) [コヤマサキ]
 丘陵の先端という地形名であり、通称「オッコシ」といいます。つまり村境の荷越しの転化と思われます。

- * 八坂下 (A-68) [ヤサカシタ]
 惣領分の鎮守で八坂神社があり、その下という意味と考えられます。(雷電脇を参照)

- * 六反田 (A-15) [ロクタンダ]
 大化改新(645)班田収授制の遺名と思われ、一区域六反歩の開墾地名と考えられます。

